

友愛活動の概要

自主的に、あるいは全老連が提唱した被災地への友愛訪問や「友愛の手紙」の呼び掛けに応じて全国の老人クラブが立ちあがり、その組織力を生かした友愛活動を展開した。

結束力の強さで全国展開

震災発生情報が全国に伝わると、全老連に、各県・市から救援拠金や救援対策についての問い合わせ・アドバイスが相次いだ。これを受けて全老連は、拠金・支援活動について協議し、全国の老人クラブに協力を呼び掛けた。

一方、震災直後の被災地では、被害の大小によって可能な限りの救援活動が、個人、あるいは単位クラブ、老連レベルで自主的に展開された。老連のメンバーも含まれた西宮市のシルバ一ボランティア団体「うづき会」などは、被災地域における救援物資の配布活動や、炊き出し、高齢者世帯の水汲みなどの救援活動に組織的な対応をみせた。

また、兵庫県、神戸市、大阪府、大阪市からなる被災四老連のうち、震災による被害が比較

的少なかった大阪府と大阪市では、全国に先がけて友愛支援活動を展開した。さらに、兵庫県に隣接する岡山県、京都府、徳島県などの地域でも、被災高齢者を励ます友愛訪問が実施された。

同じ震災体験をもつ長野県や秋田県、大きな災害を被り全国から救援を受けたことのある北海道などでは、支援活動に対する関心が高く、各老連独自の友愛活動を展開した。

被災地を訪問、交流

震災直後、被災地に隣接する地域からは、被災者救援のためのボランティア活動（家屋の後片づけや修理、救援物資配給の手伝い、炊き出しなど）のために現地を訪れた。また、被災した老人クラブでも会員の安否確認やお見舞いなどの活動が行われた。

震災直後の混乱がおさまってから、避難所や仮設住宅の高齢者を友愛訪問、慰問品などを持参して交流した。老人クラブや老連同士の交流も行われた。これらの活動は、震災のショックや避難生活に対する被災者の不安を取り除き、新しいクラブ結成のきっかけづくりに役立った。

「友愛の手紙」や救援物資を送る

被災地から距離的に遠く、訪問などが困難なクラブでは、「友愛の手紙」を送って被災者を励ました(10ページを参照)。また、手づくりの手芸品やタオル・衣類・日用品などの救援物資を会員から募り、被災老連に送付した。こうした交流の積み重ねから、老人クラブ同士による姉妹提携も誕生した。

被災者を招待

仮設住宅に住むひとり暮らしの高齢者や、被災した子どもたちを地元へ招待、歓待して励まし、交流を深めた。

被災転居者をあたたかく迎える

被災地からの転居を余儀なくされた被災者を、転居先のクラブであたたかく迎えようという運動を展開した(52ページを参照)。

研修会を開催

各地のリーダー研修会やセミナーに被災者を招き、震災対策や被災クラブの再建計画についての報告を受けた。被災者や被災クラブが何を必要としているかを把握することにより、支援活動を検討した。また、被災体験を語り伝えることにも意義があった。